



滋賀県建築設計監理事業協同組合 SDGs行動宣言

考えるのは

『人間、建築、そして環境』2030 その先へ！

私たち滋賀県建築設計監理事業協同組合は、SDGs(持続可能な開発目標)に取り組み、しが近江の持続可能な社会の実現に貢献することを宣言します。

私たちの滋賀県建築設計監理事業協同組合は、昭和42年に14社で発足し、先人達は滋賀県の主要な公共事業を数多く手がけてきました。昭和58年に官公需適格組合として新たに組織編制を行い、設計プロポーザルにて滋賀県立大学本部棟の設計監理をはじめ、近江八幡市庁舎基本設計やPFI事業では2025年開催の滋賀国体会場となる新県立体育館の大規模施設を設計監理を受注し現在に至っております。最新技術の導入の一つとしてBIMを当組合で共同購入し、各事務所のスキルアップを積極的に進めております。成果の一つとして近江八幡市庁舎の基本設計はBIMX(動画)で近江八幡市がYouTubeにて動画配信されております。SDGsの7つのテーマに建築技術を駆使し問題解決に組合員がワンチームで取り組んでまいります。

2023年10月10日 滋賀県建築設計監理事業協同組合 理事長 野田芳朗



官民パートナーシップに基づいた防災協定(*1)により、災害時における県民の財産の保全、速やかな復旧に寄与します。
(*1)「災害時における滋賀県所管施設の災害時緊急対策業務に関する協定」



県内の建築設計者として、しが近江の景観・風景・気候・風土・歴史などの地域性に配慮した建築設計に努め、地域に愛されるまちづくりを実現します。



防災・減災、国土強靱化に向けたまちづくりを建築設計で実現し、しが近江の災害リスクの低減に寄与します。



廃棄物の発生防止、削減、建築資材の再生利用や再利用による建築設計で環境負荷を低減します。官公需適格組合として万全の執行体制により、円滑な公共調達の実現に努めます。



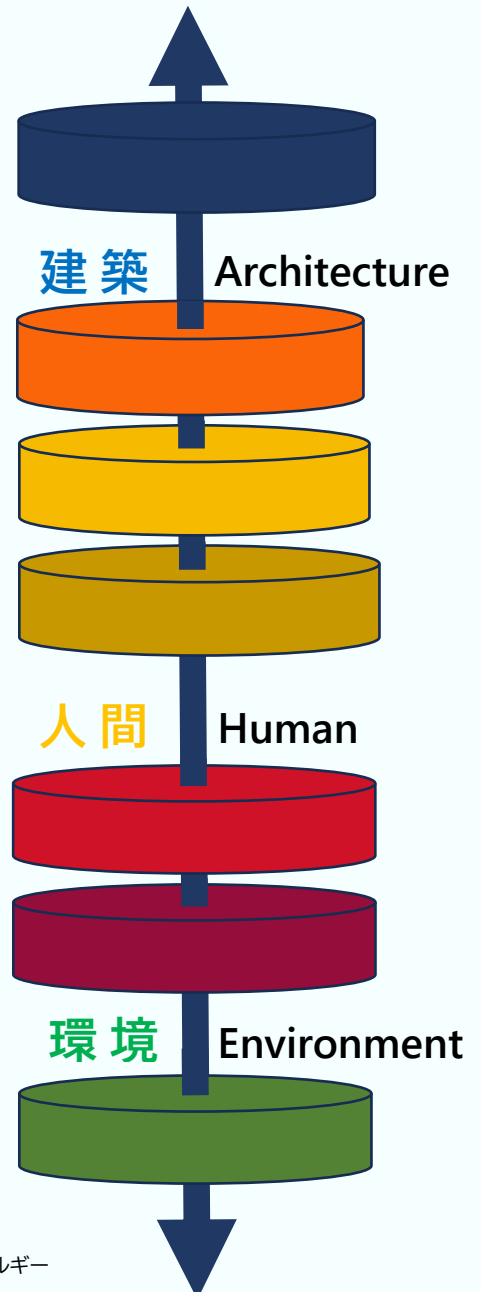
BIMやVR等の先進デジタル技術を組織で習得し、全ての組合員の資質向上に努めます。ZEB Ready(*2)などの専門性の高い技術やノウハウを次世代に還元し、組合として技能継承や人材育成に努めます。



高度な技術力で地域の建築文化の発展に寄与し、PFI事業などの共同受注の実績を重ねて、しが近江の経済成長を実現します。



長寿命、自然共生、省エネ(ZEB Ready)、省資源・循環、継承の基本理念に基づいた設計により、低炭素社会の実現に取り組みます。



(*2)「ZEB Ready」建築物省エネルギー性能表示制度のことで、国土交通省が主導する建築物の省エネルギー性能に特化した第三者評価機関による認証制度。